

熊本県立荒尾支援学校進路便り

わーく&らいふ

令和4年度 第1号（通巻第70号） 4月27日 発行

■ CONTENTS ■

【学校長寄稿】共に生きるために「主張する力」の大切さ

【トピック】令和3年度卒業生進路状況

新緑が目にもまぶしい良い季節となりました。保護者の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

今年も進路指導部では、児童生徒の皆さんや保護者・教職員の方々に向け、進路に関する様々な情報やキャリア教育の取り組みなどを「進路便りわーく&らいふ」でお伝えしていきます。各ご家庭へお配りするのはモノクロ印刷ですが、本校ホームページではカラー版をご覧になることが出来ます。随時更新していきますので御覧ください。年間よろしくお願いたします。

さて、本年度も進路便り第1号の冒頭は、恒例の「学校長寄稿」です。

【学校長寄稿】

共に生きるために「主張する力」の大切さ

校長 松本英雄

これまでもお伝えしてまいりましたように、本校は来年の4月に、高等部を岱志高等学校の校舎に移転します。これから工事が始まっていくところですが、この高等部移転に関わって大切にしたいキーワードが「共生社会の実現」です。移転後は岱志高校の生徒さん方や地域の方々、事業所や福祉施設等の方々と、様々な活動を通してこれまで以上に触れ合いながら、学び合い、認め合い、高め合う機会を設けます。それらの経験を重ね、互いの多様性やアイデンティティを確かめ合い、尊重し合うことが、「共生社会の実現」につながっていくと考えます。その過程で、生徒自身が主体的に関わり、感じ、考えながら、「働く力」とともに、「共に生きる社会を自ら創り上げていく力」をつけていきたい、そのような夢を描いています。

そのためには、生徒たちが諸活動に取り組むに当たって、人の中で生きる喜びや、人と力を合わせる喜び、人の役に立つ喜びなどを存分に味わえるように、授業や活動を組み立てていく必要があります。一人一人の今の暮らしの中で、そしてやがてつながっていく卒業後の暮らしの中で、その喜びを存分に味わえることが、人としての豊かさであ

り、共生社会としてあるべき姿だと考えます。

そしてまた、周りの人たちの中で主体性をもって生きるためには、自分の思いや考えをしっかりと伝える力、「主張する力」が不可欠です。自分はこうしたい、だから人にはこうしてほしい、これは嫌だ、こうであってほしい…。相手に対して臆することなく適切な言葉で正しく意見を述べることは、「させられる人」から「自らする人」への大きな転換です。ですがこの力は、いわゆる「わがまま」とは異なるものですから、急に身に付けることが難しいものでもあります。幼少の頃からの学習と経験が必要なのです。加えて、独善的な考えにならないためには、相手の思いや考えを「聞いて受け入れる力」も併せて高めていくことも不可欠です。

学校では小・中学部の段階から授業の中で「話し合い活動」を取り入れています。周りの意見を聞き、自分の考えと重ね合わせて自分の考えを調整し、そして堂々と主張する。主体的で豊かに生きるために、今後ますます大切になる力です。ご家庭でもどうか本人の意見を確かめていただき、自分の生活を自分でコントロールする経験を重ねていただきたいと思います。

■【トピック】令和3年度卒業生の進路状況

福祉サービスの利用	生活介護（通所）	3
	生活介護（施設入所）	3
	就労継続支援A型	11
	就労継続支援B型	5
	就労移行支援	1
一般企業等への就職		3
その他		1

4月から27人の卒業生が、それぞれ新しい場所で新生活を始めています。学校からは「追指導（アフターフォロー）のため、進路担当者や卒業時の担任が進路先を訪問したりご家族や相談員さんと連絡を取ったりなど、卒業後の生活への移行をサポートしていきます。令和3年度の進路の特徴は、福祉サービスの中でも特に「就労継続支援A型」利用者が多いことです。また、施設入所型の生活介護利用は3人でしたが、現在ほとんどの入所施設は満床となっており、新規に希望する場合は順番待ち（人気施設は数十人待ちの状況！）となることが予想されるため注意が必要です。

編集後記

本年度の進路指導員は下のメンバーです。各学習グループに担当者がおりますので、進路や福祉サービスに関する疑問・質問等はお気軽にお寄せください。年間どうぞよろしくお願い致します。

小学部一般学級（金子、宮本）、中学部一般学級（境） 高等部一般学級（原口、大野、谷口）重複障がい学級（佐藤）

